

磐城春秋

第四十四號
 發行所 磐城市平野町八番八
 印刷所 磐城市平野町八番八
 電話 八六八
 水 印刷 活字
 水 印刷 活字
 水 印刷 活字
 水 印刷 活字
 (行發曜土週每)
 【錢十五部一價定】

くすぶる商會議所問題

遂に火の手はあがる

常磐産業高山弘氏脱退表明

平商工會議所會頭問題は發
 足以來一ヶ月を経過した今
 日決定に到らず不明朗に
 すぶつてゐるが議員の一人
 たる常磐産業取締役社長高
 山弘氏は株主及議員脱退の
 意を表明して次のやうに語
 つて會議所の會頭問題に波
 紋を投じてゐる。何が會頭
 問題をかきも紛糾させてゐ
 るのか。先に發起人選問
 題で永山勇吉氏の投じた一
 石があり今またここに高山
 氏の投じた爆弾がある。市
 民は冷静に事の推移を観察
 する必要がある。時代は
 大きく動いてゐる。

三日の有志協議會に於け
 る各位の意見は山崎與三
 郎氏を推しもし氏が受諾
 しなかつた場合は山崎氏
 に意中の人を推薦して貰
 ふといふことであつた。貴
 しかるに當の山崎氏から
 はまだ何の挨拶もない中
 から一部の人が會頭、
 副會頭の物色をするとい
 ふやうに他の議員を
 ふみつけにしたりやうに
 である。山崎氏が辭退し
 た以上は一應白紙にかへ
 して互選すべきである。
 また柏原秀三氏が自分は
 山崎氏を信頼して加入を
 すすめて来たのであるか
 らもし山崎氏が出なければ
 はやめるかも知れぬとい

衣類ドロに

御注意下さい

最近のドロは冬物とは限
 らず夏物でも何でも衣類
 かりを狙つて横行してゐる
 平署に届出するものだけで
 一日平均十件を數へてゐる
 から實際の被害數は遙かに
 上廻つてゐるものと思はれ
 る。犯人は大體二十歳前後
 の青少年で、二人、三人と
 組を作つて仕事をし、歩
 爲、警察側でも対策として
 少年係の設置、夜間密行の
 強化等に苦心してゐるが各
 家庭にも充分注意する様
 に要望してゐる。

猫吹山

主演 鈴木澄子
 凄艶! 鈴木澄子主演
 同時上映「令人歌合戦」
 10日—16日
 平市 聚樂館

人物紹介 (34)

明朗な青年劇場主

民衆劇場 佐藤常雄君

いふ當年廿六歳の白面の青年だ。
 佐藤君は平南の出身、在校中は柔
 道部の主将として活躍、柔道は二段
 の腕前である。卒業後當時の若人
 らしい野望にもって、三ヶ年勤め、そ
 の後、上海滿鐵調査部に三ヶ年勤め、そ
 の後、終戦の折は陸軍中尉
 として那馬島の安中であつた。民衆
 劇場はその名の示す如く民衆の
 娛樂機關としての使命に生きてゐ
 る。來春二月迄はきつしり興行が
 予定されてゐるといふ事だが民衆

東京女高師

石川謙氏講演會

文協でも座談會
 泉村の本多忠篤侯顯彰會が
 主催となり徳川時代庶民教
 育の研究家東京女高師教授
 文學博士石川謙氏の講演會
 が次のやうな日程で行はれ
 た。五日泉國民學校六日磐
 中(市内男女中等學校上級
 生)七日湯本國民學校上級
 文協では五日夜石城産婆學
 校で座談會を催した。

新刊紹介

「ロシヤの人々」
 ヴィモフ著
 先般同志と共に來朝したロシ
 ャの作家コンスタンチン・シ
 ヨフの戯曲で、モスクワに授
 けられ、ソ聯邦の各地で上演さ
 れ、又映畫化もされてゐる。社會主義
 的リアリズムに據つて立つ彼の作
 品からは數々の學び取るべきもの
 がある。(B6一五八頁、十二圓、初版
 協同出版社)

大森昌一氏

醫師會石城支部長大森昌一氏
 令息大森昌一氏(二十七)は印
 度支那諒山野戰病院で物故
 されたが五日一切の供物香
 奠を辭退して質素な告別式
 を執行した。

就職案内

平働券所より
 ▼土工男二十名 十八—四十五才
 手取、常備十二—十五圓 勝負二
 十一—三十圓 現場部内國道工事
 飛行場整備工事 旅費支給 毛布
 身用品、印鑑、移動証明書持参ノ
 ▼製材工男三十名 十八—三十才
 通勤給二十才以下二十圓、二十
 才以上二十五圓 通勤手当ヲ支給
 往一朝平發下り七時五十分 復下
 夕久之濱發上り六時九分 作業現
 場、久之濱町濱川三 平市南町六
 十 鈴木耕三
 ▼炭焼難夫男二名 十八—五十才
 未經檢可 日給三十一圓五圓 七
 時—四時 現場 磐村宇白鳥
 ▼男工員八名 十八—二十四才
 七時半—四時半 見習中五圓
 位 通勤可能ノ者 平市小太郎町
 三 近藤電球製作所
 ▼難役男五名 二十一—三十五才
 未經檢可 一ツ上、旋盤、鍛冶工
 男五名 二十一—三十五才
 七時半—四時半 通勤可能ノ者 給
 面談 赤井村大字赤井四二 常磐
 石炭助成赤井製作所

断層

夏目漱石の名と共に忘れぬ事の出
 來ない此の人が終戦後後に書いた
 隨筆で、以前に書いた「海」日記の
 一部を附け加へて一冊にまとめた
 もの。目次の一部—八月十五日
 印刷されたものが原稿、木下李太
 郎のこと、太田の思ひ出、マハリ
 ン、ローマとナポリ、ミュンヘン
 の隨想合を考へて安くて良心的な
 ものの興行を目論んでゐる。佐藤
 君の父三春屋食堂主人子之吉さん
 は社會黨員であり借家人同盟の幹
 部である。民衆劇場の建設には、
 父の吉さんの協力も見逃がす
 わけにはゆかぬが資金難物資難に
 加へてインフレの暴走は最初の予
 定も予算も大狂ひに狂つてしまつ
 た中をどう完成に漕ぎつけた
 のは青年佐藤君の柔道でできた外
 地で磨いた不屈の精神である。ま
 た戦災復興策としての劇場建設
 を提唱して鼓舞激勵自らからその
 謀を買つて出たのが往年の新聞入
 山田徳雨氏であり、民衆劇場の性
 格は佐藤君父子と山田氏の性格の
 反映である。平南同窓生の平製作

女工募集

若干名 給面談
 ▼製材見習男三名 十八—二十五才
 ▼年少工男二名 十六—二十才
 ▼女事務員一名 十八—二十五才
 高女卒 未經檢可 市内通勤者
 給面談 振袖小路 色川製材工場
 ▼女事務員二名 十八—二十四才
 住込 三倉付四百圓位 平市一丁
 目 一万
 ▼製材工男三名 年齢不問 通勤
 七百—八百圓位 通勤費支給其ノ
 他給等 平市下河原三十九 馬場
 廣佐吉 東和動力製塩所 現場久
 之濱町下二
 ▼製材助手男三名、女二名 十七
 —三十才 學歷不問 十五—二十
 圓 ▼木材運搬夫男十名 十七—
 三十五才 學歷不問 十五—二十
 圓 通勤 ▼番當男一名 十七
 歳前後 中卒住込二二—二十五圓
 位 平市柳田町 丸一製材工場
 ▼店員向女中一名 十五—二十歳
 國卒 百圓程度 定族四人ニテ家
 事少キ店員シテ家族同様に平
 騨 小島藥局
 ▼警備員男四名 三十一—四十五歳
 月手取シテ五百圓 通勤 外ニ
 夜勤手当五圓(一晩) 平市三丁目
 富士製菓
 ▼女事務員一名 十八—二十三歳
 高女卒 市内居住者 二百五十圓
 位 平市二丁目 延松ステアガ
 ▼男工員二名 二十一—三十歳 八
 時—四時 最初見習後請負テ四十
 —五十圓位 四倉落一
 ▼加工工男五名 二十一—二十五才
 住込 應見持参ノコト 給面談
 江名町中ノ作 中山藤雄
 ▼難役四名 二十五才迄 通勤
 日給十圓 平市新川町 松崎硝子
 ▼控線見習男女二名 十八才迄
 通勤 八—四時 見習中八五圓位
 平市北白銀町 富加須電機工業所
 ▼上仕旋盤工男四名 十五—二十
 才 七—四時中 通勤 給面談
 平市正月町 渡邊鐵工所
 ▼男給仕一名 十八才迄 通勤ニ
 限レ 道路工夫男三名 大浦、
 大野、草野地内各一名宛 日給二
 十圓位 工夫トシテ常備後ハ二百
 五十圓ニ家族手当 土木監督所
 ▼女給仕一名 十八才 通勤 市
 内居住者ヲ要ム 磐中
 ▼女中一名 住込 給面談 平市
 住吉屋支店

船舶物
 船鑄
 山種
 鑛各
 株式會社
 製作所
 社長 鈴木賢二
 平市堂前4 電話41

診療科目
 内科 外科 眼科 耳鼻喉科
 産婦人科 レントゲン科
 厚生省指定病院
 日本醫療團平病院
 電話 六〇八番八一—番
 平市十五丁目

釜屋商店
 平市五丁目
 電話九番九九番

福島縣指定自動車
 整備主要工場
 磐城自動車工業
 株式會社
 平市正月町
 電話三七〇〇番

原桑計理事務所
 計理 原桑 徹
 士理 務 士
 電話 一八番 土揚市平

内木外科醫院
 内木 宗 八
 平市大町二番地
 電話六八三番

岐路に立つ

高木 稻水

警城春秋も發足以來四十四號、次號を以て創刊一週年を迎へる事となつた。この間紙價は暴騰し印刷代は高くなり自分は社の収入だけではやつてゆけなくなつて來てゐる。まことに氣息奄々で辛うじて維持してゐる状態である。廢刊か休刊かの岐路に立つて頭を浮ぶものは貧弱なこの週刊紙を購讀し或は月々廣告料の名目で支拂してゐて下さる各位の厚情であり、發刊の辭のおほりなき宣言である。ふりかへつて見ると編輯にたづさはつてくれた中里君、河田君、無報酬で營業部を担当してくれた永野君、亂暴な原稿から活字を拾つて組んでくれた印刷所の人々、感激と思ひ出は盡きない。インフレの昂進は家庭生活の煩雜となり六月以降は落着いて編輯もできなかつたが、人心を毒する文字は並べなかつたつもりだし、意識した嘘は書かなかつたつもりだ。今日迄に活字にした自分の文がどこかでどなたかが讀んで味つて自分の眞意をわかつてくれたものであると信じてゐる。従つて本紙の存在が無用であつたとは思はない。

韓退之といふ人の伯夷頌といふ文には「士の特立獨行はただ義に適するのみ人の是非いかに顧みず」とある。天下舉つて之を是とする時ひとり之を非として惑はざるはけだし難いかなである。滔々たる舉世何をか是とし何をか非とする。曰く勞働攻勢、曰く資本家攻勢、政治、經濟、思想、教育何れも紛々擾々。敗戦日本よ

益々活潑

生協組合の配給

平生協同組合は目下組合員の擴大運動中であるが、現在配給中の物資は茶、厚生脱脂綿、さつまいも、魚油、洗剤、漬物桶(四斗入百四十五圓、二斗五升入七十五圓、一斗八十八圓)等であり、近々セリ、たらのひらき等が入荷する

植田町に

滲透農場

植田町に滲透農場が設けられる。この農場は、農林省の指導をうけて、農業者の技術及經營の指導を末端迄滲透せよといふ目的で五ヶ町村に一農場位で設けることをすすめてゐるもので五萬六千圓の補助金を出し農業技術指導員を派遣實行組合員幹部の講習を行はしめるもので石城郡では川前にあるが片寄つて居るので植田に新設して警農を中心と同僚職員が實際指導にあたる事になり滲透の効果も多し事と期待をかけられてをり目下田附校長が石城地方事務所農業會と實現について折衝中である



友情

加藤 幸男

路子の感情の變化して來たのを伸介はうすう感じてゐた。お互に理解し合つてゐたので路子の言葉遣や態度でその感情の移つて來たのを知らずには居られなかつた。伸介が路子を知つたのは伸介が入營する前だつた。勿論その頃は路子は菊地を知つてゐた。菊地は路子の氣持を知らないかもしれない。然し伸介は路子を知つてしまつた。彼は菊地に逢ふ事を避ける事を出ななかつた。逢へば路子の名を云はなければならぬ。彼はグレンマに居た。自分の身の處置に困つた。さうして何故か昨年の春戦場へ死ななかつたのかさへ思つた。伸介は全ての生活の希望と親友と一度に失つた。彼は美しからべき友情が距離を越した事に就て考へ續けてゐる

文藝

投稿歓迎 可紙上匿名

書籍

高價に買えます
平市五丁目 片寄書店

皆様の外出をお待たしてゐる
平市五丁目 片寄書店

タペシリン軟膏
其ノ他有名薬
平市五丁目 片寄書店

日本巴布業工業株式會社
平市五丁目 片寄書店

株式會社ホシ薬舗
平市三丁目五番 電話四二九番

福島縣指定事業重點工場
平硝子製作所
平木工製作所
社長 佐藤幸太郎
専務取締役 足助重雄
本社 平市新田町二六
電話 七四一・四五・七七二
東京事務所 東京都芝区新橋二
ノ三八(島森ビル)
電話(57)四八三三番
工場 電話 二九二・二七三
三八九・八三三・三五〇

神谷工業原料株式會社
社長 神谷兼次郎
平市五丁目五番 電話 六五六・六六五

星製薬株式會社 福島工場
平市五丁目二八番 電話 六六八・三五三

内科小兒科 鈴木醫院
平市銀治町 電話 四四二番

小兒科内科 酒井醫院
平市南町 電話 五五五番

内科小兒科 大森醫院
平市南町 電話 二五八番

内科小兒科 渡邊醫院
平市八幡小路 電話 八一四番

外科 上田醫院
平市南町 電話 一二九番

新星硝子工業株式會社
平市佃町 電話 七二四番

醫藥用、化學用其他硝子製品一切の製造

久野電機工業所
平市二丁目九番地 電話 平七二二番
振替東京五〇四番

蓄電池 發電機 電機マクネット 船舶自動車 電機一般

阿康告知板
冬の病氣(シモヤケ、ヒビ)の豫防は今から
① 肝油球(シモヤケAD)
② 皮膚保護薬
③ 感冒、セキ薬
右衛生資材準備に御利用下さい
阿康藥局
平市田町銀座街 電話 四四四番

大床婦人部
平市田町銀座街 電話 新設五五二番

少年の町」役場
鈴木傳明
平市公會前 電話 六〇三番

三浦商會
平警察署前通り 電話 八六四番

◆新設
小型自動車修理部
ダットサン ダイハツ
マツダ くらがね

文房具部
掛箱の委託販賣も致します
みどり商會
平市番匠町(櫻園東邊) 連絡所 警城春秋社 電話 四一八番